

完成目指す“新孫別道工事”

第二期工事へ ダツシユ!

×昭和49年度×

昨年から岩見沢市の二ヶ年計画として実施が進められていた「新孫別道」工事が、昨年の施行部隊と同じ第一〇二施設大隊第三中隊の手で引き続き今年も進められています。

今年度は、昨年造成した一〇〇〇米に続いて一二〇〇米を造成するため六月二十三日から日の出会館に宿泊し、ブルトーザー、グレーダー、ダンプ、スクレーパー等十六台をフルに動かして急ピッチで工事を進めております。

この道路は幅員一八米、延長二二〇〇米で道道夕張と岩見沢線に接して岩見沢と夕張への最短距離となるものです。

今、作業隊長 細川三尉以下三十四名は日の出会館に宿泊して、沢を埋め、谷を越え、山を切り通しての難工事個所にとりかゝつておりますので重、大型車両が朝早くから夜遅くまで走り回り、多少住民の方々に御迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、わが市の発展のため御寛容下さいますようお願い申し上げます。

前記日の出会館(元孫別小学校)にお暇な時、お通りがかりの時は是非お立ち寄り下さい。隊員一同お待ち申し上げます。



発行者
岩見沢駐とん部隊
第102施設大隊
第3中隊
孫別作業隊

自衛官志願は
② 1001番

休日自然保護活動 善意の清掃奉仕

孫別自然観察園で

作業隊の周りは孫別自然観察公園として知られている。こゝには植物、樹木等百数十種が豊富に保存されており、これらを住み家とする野鳥も数多い。樹木のあちこちに市内のよい子達が果箱を造り小鳥達の絶好のマイホームとなつてゐるが、繁殖期の今、雛達が蛇に食われていることを知つた隊員達は、神の摂理等とすまじ込む答はなく、早速全隊員による大がかりな「蛇退治」を行つた。結果、五匹を捕獲したが中には今雛を呑



み込んだばかりという長さ一メートル余りの青大将もいて、隊員の蛇の処分については「殺してしまえ」という硬派「やはり生き物、どこかへ放してやれ」という軟派とに分かれて喧々囂々。結局、工事現場の山中に放してやつてチヨン。

この日、同公園内の清掃も同時に実施したがすがすがしい一日を過ごした。雨にタタラれた工事休みの余徳でした。



神通力かオカルトに挑戦?
天とニラメッコの隊長

このところ天候に恵まれずおシメリが多く、工事に影響を及ぼしている。といつもわずか8分たらずのダウンであるが、そこはキ帖

新都市「マゴベツ」

すんだ空気と緑、そして遠い山脈にかこまれた新しい生活圏、新孫別道路はそうした市民憲章にうたわれている「生き生きとした緑の中の岩見沢市民」の暮らしを約束するだろう。

作業隊一同は、こうした未来図を頭の中に書きながら作業をすすめています。いわば「夢を造る人々」なのです。

地域の皆さん、こんな夢を語り合いませんか。私達市民の願いと夢を大いに掲げましょう。日の出会館にはいつもそんな夢でふくらんでいます。ぜひ一度遊びにおいで下さい。



未来都市「マゴベツ」

面を細川隊長、毎日、グラフの発行線の上り下りが気になる。そこへくもり勝ちの空続きとあつては気をもむのも無理からぬこと。近頃は夕暮れの空に向つて「ノストラダムス」か「ユリ・ゲラー」よろしく、明日は快晴を繰り返して念ずるとか一方、朝四時から夕方七時までドーザーのウナリの止まる暇もなく文字通りダツシユをぶちかましている作業隊員は、タマに降る雨は絶好の骨休めになるとして、「そろそろ雨が降つてもいゝよ。」とは無責任な独り言。

(M・H生)

ミニニュース

孫別新道の某農家のこと。グアムの小野田さんや横井さんのように流れと井戸に水を汲み、ランブを点して生活しているところがあつたとか。

文化都市「岩見沢市」の中でウソのようなホントのおはなし。

